

勤務環境改善NEWS

11号

～秋田県社会保険労務士会アドバイス～

勤務環境改善の取組事例を紹介します

秋田県医療勤務環境改善支援センターのうち、労務管理の支援を請け負っている秋田県社会保険労務士会では、労働局委託事業である医療労務管理支援事業の一環として県内医療機関での取組事例の収集を行っておりますので、事例の一つを紹介します。

今後、当事業のホームページ(<https://akita-sr.wixsite.com/iryou/casestudy>)にて随時追加していく予定ですので、是非ご覧ください。

.....

！ 取組目標

病棟・担当課の枠組みをなくし、事務部門を少人数のチーム制へ移行する

！ 取組を行った医療機関の医療機能／病床規模

急性期機能、回復期機能／400床以上

！ 取組内容

- ・働き方・休み方改善
- ・働きやすさ確保のための環境整備(ソフト・ハード)
- ・ワークライフバランスに取り組む組織風土・体制作り(長時間労働の抑制、年次有給休暇の取得促進の取り組みを含む)

！ 取組のきっかけ、取組前の問題点

基本的に時間外労働が多い部署である医事課において、担当する病棟により業務量に差がある。

さらに、担当係でも業務量に差が生じており、繁忙な病棟に所属すると1人分のレセプト作成や点検にも膨大な時間がかかっていた。

そのような状況でも、子育て期の従業員にあっては、急に休まなければならないこともあり、結果として、一個人の仕事が大量にたまって業務が滞ってしまっていた。

《裏面に続きます。》

勤務環境の改善に関する医療機関からの相談をお受けします。
まずは、お気軽にお問い合わせください。

秋田県医療勤務環境改善支援センター

○勤務環境改善全般に関すること 018-860-1403

○労務管理に関すること 018-863-1777

平日 9:00～17:00

！ 取組の体制・中心人物

医事課の課長・係長

！ 取組の詳細

医事課は、業務の難易度が高い部類に属する。基本的にベテランが必要であるため、新人が配属されると業務の維持が困難になる。

しかし、配属されるのは、経験年数・業務遂行能力ともにバラバラな職員であり、なかなか均衡が取りづらい。

そこで、業務の標準化が必要と感じ、2018年の初めに構想を練り上げ、無駄な業務の洗い出しを行い、徐々に業務量を減らした。

また、2018年の12月からは、医事課における病棟・担当課の枠組みをなくし、少人数のチーム制へ移行したことで、それまで1病棟を1人で担当していたのを、3病棟を3人で担当させることとした。

取組の当初は、慣れていないため、業務量が一時的に増えた。しかしその後、一定期間ごとにチームリーダーへ報告を行ったり、チーム内で話し合いを行うことにより、時間外労働が一時期より減ってきた。

2病棟2人体制、同じフロアーの病棟同士をチームとする変更を2019年6月に行い、職員の能力が向上し、休日が取りづらい状況が解消された。

体制を作り上げるのには時間がかかるが、若い従業員には非常に勉強になっており、また、有給休暇の取得がしやすくなっている。

1病棟を1人で担当すると、例えば手術の請求入力などの知識の共有ができないが、チーム制によりノウハウが共有されていると知識の共有も簡単で、かつ申し送りもスムーズになり、それに伴って年に1回の人事異動もスムーズになった。

全体の業務総量に変化はなく、配置人数も変化はないが、時間外休日労働は明らかに減少した。

！ 実施後の成果や見えてきた課題

取組初期の段階では、内科と消化器内科等というように、ある程度診療内容が近いチームとしていたが、現在では内科と外科でも取り組めるようになったので、今後は業務の均てん化を更に推進していきたい。

事例紹介のホームページのQRコードはこちらです



秋田県医療勤務環境改善支援センターでは、社会保険労務士や医業経営コンサルタントを無料で派遣しています。労務管理や経営管理に関する疑問等がありましたら是非ご利用ください。